



江田島市授業づくり研修

大古小学校 住田裕子



本時の流れ

自学が始まったきっかけ（本校の実態より）

自学のもとになる学習観

自学で児童につけたい力

自学とは（学習デザインと環境）

自学の基本となる考え

子どもには自ら学ぶ力があり，学びの主体である。

学びの主体としての責任を児童自身に返す。

学びの責任は，子ども自身にある。

子ども自身が学び方を選択し自らが舵取りをする学びを支援する。



自学に何を求めるか

学ぶことは価値あること

自分を学習に向かわせる力（自己調整力）



学習とは何か

ヒト・モノ・コトとの相互作用により
知識が再構築される営み (Sawyer, 2014)



学習科学の知見を生かす

学習者が自分自身の知識構築に主体的かつ
協調的に取り組むことで、深い理解を伴う
学習が成立する。

授業づくりに学習科学を生かす①

学習者が自分で構築している知識を外化し明確化することによってより効果的な学習がなされる（Bransford, Brown, & Cocking, 2000）。

➡アウトプットを大切にする

授業づくりに学習科学を生かす②

課題遂行とモニタリングの役割交代をしながら問題解決を行う場合、他者が外的資源となる（白水，2004）。

➡他者の課題遂行のモニタリングを促す学習環境デザインを設計する

授業づくりに学習科学を生かす③

相互作用の質を高めるには、他者の視線の方向から他者の発話の意図を推測する共同注意（Tomasello, 2001）や粘り強い追跡的発話（住田・森, 2019）が重要である。

→ 協調的に学ぶスキルの指導を行う

授業づくりに学習科学を生かす④

学習者は、それぞれに異なる学習進度，学習スタイル，認知スタイル，興味関心，生活経験などの学習適性（学習の成立や質に影響を及ぼす個人差）をもっている。

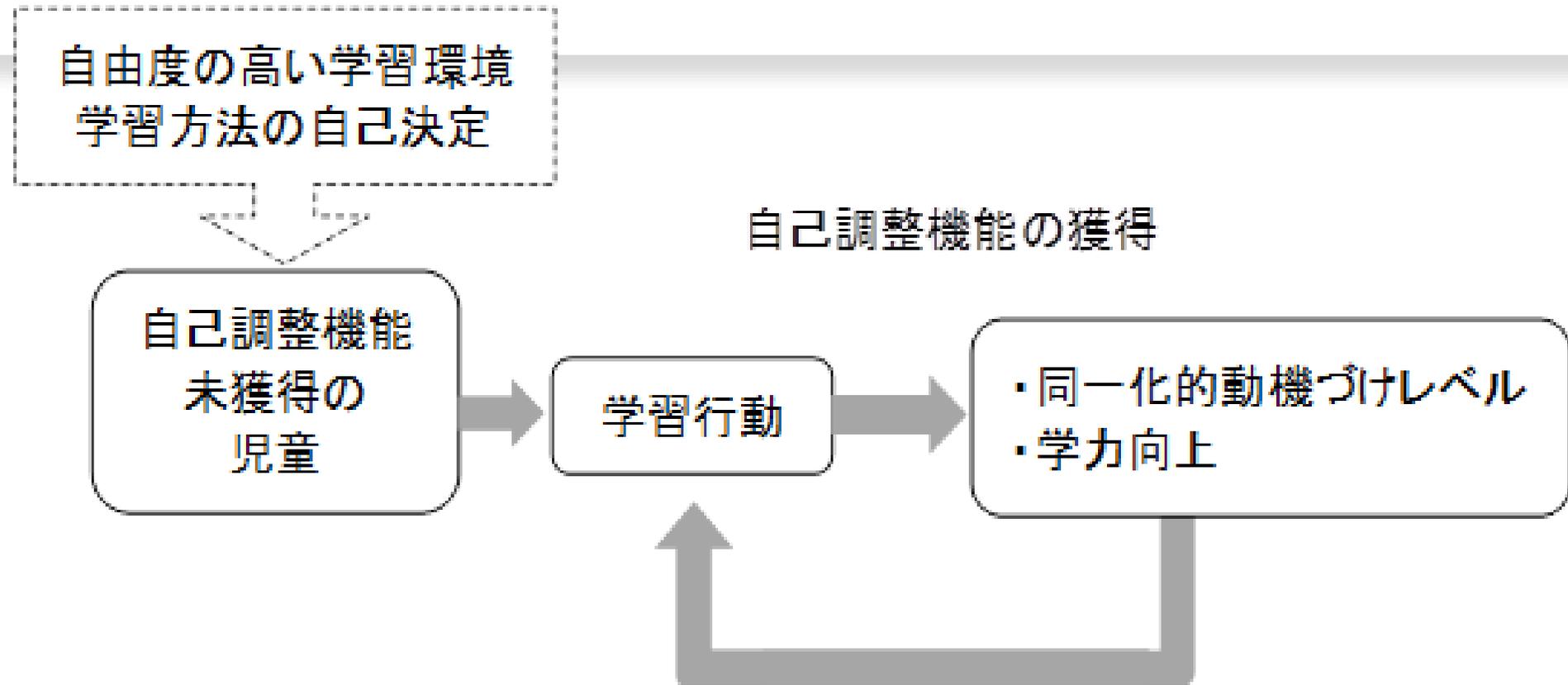
➡何が「よい学び方」かは，学習者によって異なる

授業づくりに学習科学を生かす⑤

「面白いから」よりも「自分にとって重要だから」という学習動機の方が、将来の学業成績を予測する。

➡学習行動をコントロールする自己調整力を授業で高める（個体の意思に即して自己の行動を調整する自己調整力の育成は本校の教育課題である）

児童が学びに向かうための仕組み





自学の学習デザインと環境

- ①課題の自律的な遂行
- ②学びの場が選択できる環境づくり
- ③対話的な学びの推奨

自学の展開例

課題の把握

個別や協働の学習による理解

説明課題による理解深化

習熟と評価